

令和7年度 交流及び共同学習

I 学校間における交流及び共同学習（学校間交流）

1 目的

- (1) 同世代の生徒及び異世代の児童との交流を通して、互いを理解し、助け合いや支え合って生きていくことの大切さを学ばせる。
- (2) 間接的な交流に加えて直接交流を通して、同世代の生徒及び異世代の児童の活動の様子を見たり触れ合ったりするなかで、共に学び合い、高め合う機会とする。

2 提携校

交流及び共同学習提携校
山梨県立笛吹高等学校
笛吹市立石和東小学校

3 実施状況

月日	提携校	実施学年等	教科等区分	実施内容
5月30日（金） 11月4日（火）	石和東 小学校	農業生産コース	専門教科	（小1）石和東小学校にて、5月にサツマイモの苗植えの方法を教えた。11月はサツマイモの収穫を一緒に行った。
12月16日（火）		農業生産コース 食品加工コース		（小2）本校にて、桃花ダイスキマーケットの案内・販売・接客
12月5日（金）		環境メンテナン スコース		（小6）本校にて、花苗の植栽・窓清掃
6月25日（水）～ 27日（金） 7月25日（金）	笛吹高 等学校	美術部	部活動	・笛吹高校にて、笛吹祭での作品交流 ・共同作品制作
6月25日（水）		生徒会役員 1,2年学級委員 長	特別活動	笛吹高校にて、笛吹祭の見学
7月15日（火）		食品加工コース	専門教科	笛吹高校にて、グループワーク
9月13日（土）		美術部	部活動	本校にて、学園祭での作品交流
9月30日（火）		環境メンテナン スコース	専門教科	笛吹高校にて、清掃及びベッドメイキング
3月14日（土）		合唱部	部活動	笛吹高校にて、吹奏楽部と交流

4 学校間交流の様子

(1) 石和東小学校との交流及び共同学習

① サツマイモの定植と収穫

5月下旬、定植当日は雨天だったため、農業生産コースの2年生が、教室内でクイズなどを交えながら、定植について石和東小学校1年生に伝えた。紙芝居や模型など使いながら具体的に説明した。生徒たち、それを見つめる1年生、双方の楽しさと真剣さが伝わってくる交流となった。後日、本校の農業担当の教員が小学校に出向き、児童と一緒にサツマイモの定植を行った。11月には、サツマイモの収穫を行い、1年生からは「楽しみで昨日眠れなかった！」という発言もあり、この交流会を楽しみにしてくれていた様子がうかがえた。宝探しのように土を掘っていき、サツマイモが見えてきた時には大歓声があがり、収穫の喜びを一緒に味わうことができた。生徒にとっては毎年初めての交流となるが、1年生へのわかりやすい伝え方やかかわり方等はこれまでの学習等で蓄積することができてきていると感じている。相手のことを思いながら、準備したり、伝え方を考えたりでき、自己有用感を実感することができる大切な機会となっている。



サツマイモの苗植えの説明



後日行った定植の様子



サツマイモの収穫

② 買い物学習

12月に石和東小2年生が、桃花ダイスキマーケットに来校した。1年生の時にサツマイモの定植で交流をした児童である。昨年の交流のことを覚えている児童もおり、生徒も思わず笑みがこぼれて和やかな雰囲気での交流となった。

本校では、パンや焼き菓子、野菜をスムーズに購入できるように準備をした。価格も小学生が購入しやすく、計算もしやすいように設定した。生徒たちの中には、視線を合わせやすいように低い姿勢をとりながら対応する者もおり、相手に合わせた接客を工夫する姿が見られた。石和東小では、現在金融経済教育に力を入れており、児童のお小遣いは、お手伝いとして貯めたお金ということであった。大事にお金を握りしめながら、予算内で自分や家族の好みのものを購入している様子からも、共同学習として適切な場を設定できたのではないかと感じた。



優しいまなざしで接客する生徒たち



農業生産コースの3年生が中心となり、会場準備や案内・販売活動を行った。

③ 花苗の寄せ植え、窓清掃

12月に石和東小学校6年生24人が来校し、花苗の寄せ植えと窓清掃体験を行った。環境メンテナンスコースの3年生が各グループに入り、花苗のプランターへの寄せ植えの手順等を教え

た。生徒は、活動の手順や楽しさなどをどのように伝えたらよいのか考え、交流会に臨んだ。児童全員が実技を体験することで、児童とたくさんのやりとりができた。また、清掃作業についても綺麗に窓ふきができた喜びを児童に感じてもらうことができたと思われる。生徒は相手に合わせたやり方で教えることの大切さを学ぶ機会となった。



プランターへの植栽



窓ふき清掃

(2) 笛吹高等学校との交流及び共同学習



学園祭を見学した感想等の
意見交換



美術部の作品交流

① 笛吹祭（笛吹高校学園祭）での交流

6月、本校の生徒会役員及び1，2年生のHR長が笛吹高校の学園祭見学での交流、美術部が作品交流を行った。見学の際は、笛吹高校の生徒会長や役員が、親切丁寧に誘導したり説明したりしてくれた。本校の生徒もそれに熱心に応じて、リラックスした雰囲気での交流ができた。各クラスの発表を見学した生徒たちは、いきいきとしたパフォーマンスや工夫したステージに心躍らせ、自分たちの学園祭への思いをはせているようだった。Tシャツデザインや使われていた楽曲など参考にしたいという感想をもった生徒もいた。

笛吹高校美術部の展示場所には本校美術部の作品も展示されており、両校の作品を見学することができた。各所にノートや色紙等が置かれ、感想等を伝えあう工夫もされていた。笛吹高校生徒会長の言葉からも学校間交流が大切にされていること、継続が望まれていること等を感じることができた。

② 部活動での交流

美術部は、7月に昨年度末に制作した共同作品の下地に両校の校名や記念日等を入れる活動を行った。前回の続きということもあり、見通しをもって取り組むことができた。絵の具づくりや描画方法など、お互いに話し合いながら活動をすすめた。9月に本校の学園祭「桃翔祭」に笛吹高校美術部が作品展示をした。7月に作成した作品も展示し、美術部だけでなく多くの生徒が鑑賞することができた。それぞれ展示会場にはノートが置かれ、お互いの作品の感想などが寄せられた。全体的な感想だけでなく、個人の作品の感想も書かれており、その後の制作の励みとなった。

合唱部は、3月に吹奏楽部との交流を予定している。



完成した共同作品

③ 食品化学科との交流



7月には笛吹高校食品化学科の2・3年生と本校食品加工コースの生徒が笛吹高校を会場に交流会を行った。笛吹高校特製アイスクリームでもてなしてもらおうと、お互いの緊張が少し和らぎ、自己紹介では自然と拍手が出る和やかな雰囲気での交流できた。桃花台学園の公式キャラクター「こもも」と笛吹高校の公式キャラクター「ももりん」のイラストをアレンジして、クッキーの型を製作する取り組みを行った。両校のアイデアを盛り込んだ様々なアイデア案をもとに、笛吹高校の3Dプリンターでクッキー型を製作してもらい、製造したクッキーを本校の秋の大収穫祭で販売した。

④ 人間科学系列生活福祉コースとの交流



ベッドメイキング



窓清掃

9月に笛吹高校人間科学系列生活福祉コースの3年生と本校環境メンテナンスコースの2年生が笛吹高校を会場に授業交流を行った。笛吹高校の3年生からベッドメイキングのシーツの敷き方や畳み方について実践を交えて教えてもらった。同年代の生徒との会話を楽しみながらベッドメイキングの基本的な知識や技術を学ぶことができた。

本校の2年生が窓清掃の仕方を教える場面では、ウォッシャーやスクイージー等の清掃用具を初めて使う笛吹高校の生徒が多く、道具の使い方や作業手順の見本を見せながら分かりやすく教えることができた。お互いに授業の中で学んだ知識や技術を伝え合い、共に学び合いながら充実した交流会になった。

5 成果と課題

石和東小学校とは、予定していた交流をすべて実施することができた。サツマイモの定植を予定していた日は今年度も雨天であったため、室内で紙芝居や模型など使用し説明した。本校と小学生との交流は、他校のように同学年の児童生徒同士の交流の積み重ねとはならないが、定植や寄せ植え、清掃等をわかりやすく説明する教材は蓄積できている。それらを使いながら児童へのわかりやすい教え方やかかわり方を事前に考え、当日の直接交流に臨んでいる。毎年小学生と交流することで、教えることの難しさや相手に合わせた接し方や表現を変えることの大切さを学ぶことができています。今年度は石和東小学校の児童が、「金融」に関する学習をしておき、お手伝いをして貯めたお金で買い物をする活動だった。そこで、価格を小学生が購入しやすく、計算もしやすいように設定した。買い物練習としての学習の場を提供する機会ともなって良かった。石和東小学校からは、児童が年長の本校生徒から学び、内面を引き出してもらっているように感じる、いつも接しない方とのかかわりあいの中から、新たな気づきをしている児童も多い、小規模校であるので、様々な方との交流は大変意義があると思っているという感想をいただいた。更に、今までの交流を深めていくとともに他学年での交流も模索してい

たいと考えている。

笛吹高等学校との交流では、生活福祉系列コースや食品化学科との授業交流、笛吹祭への見学、美術部の作品交流などの活動を実施することができた。生活福祉系列の生徒とは、今年度初めて環境メンテナンスコースと授業を通して生徒同士が直接かかわる授業交流が実現し、ベッドメイキング、清掃の活動を行った。食品化学科との直接交流は、本校を会場に昨年度初めて実現し、今年度は笛吹高校で実施することができた。これまでの成果や反省を生かして、少しずつ交流を広めたり深めたりすることができてきている。笛吹高校からは、生徒たちは桃花台学園の清掃技術の高さに感動していた、交流の後半でのお互いのうれしそうな表情が印象的だった、互いの専門分野を認められる体験は、生徒の自己肯定感を高めている、という報告があった。担当が変わっても末永く交流できるように引き継いでいくとともに、更に来年度は農業生産コースでも直接交流ができるように検討していきたいと考えている。

部活動を通しての交流は、次年度も美術部が作品交流を続けるとともに、他の部活の直接交流も進めていきたい。スポーツや芸術活動においては、同世代の仲間がいるということを実感できる機会であり、双方がよい影響や刺激を受ける場となる。さらに交流及び共同学習の内容や方法を工夫し、目標に迫っていきたい。

II 地域における交流活動（地域交流）

1 目的

- (1) 地域の方々とともに活動するなかで、相互扶助の経験を通して協同の大切さを学ばせる。
- (2) 学校で学習した内容を、社会の中で活用する経験を通してより確かな力に高める。
- (3) 地域の人々とのふれあいを通して、卒業後の就労に必要なコミュニケーション能力を実践的に育成する。

2 交流先

地域交流先
笛吹市石和町中川地区

3 実施状況

月日	地域交流先	実施学年	教科等区分	実施内容
5月～2月 (7回実施)	中川地区	2学年・ 3学年	専門教科	桃花ダイスキマーケット
5月～2月 (7回実施)	中川地区	広報委員会	特別活動	桃花ダイスキマーケット告知放送
7月2日(水) 7月3日(木)	中川地区 藤巻農園	1学年	専門教科	ブドウの傘かけ
9月30日(火) 1月23日(金)	中川地区 ケヤキの会	食品加工 コース	専門教科	桃カフェに招待し、座談会をした。

11月2日(日)	中川地区	美術部	部活動	中川地区公民館祭での作品交流
11月15日(土)	中川地区	全校	専門教科	秋の大収穫祭
12月3日(水)	中川地区	環境メンテナンス1年	専門教科	公民館の清掃

4 地域交流の様子

(1) 「桃花ダイスキマーケット」



マーケットの様子

桃花ダイスキマーケットを5月から2月にかけて7回開催した。中川地区にマーケット開催日時を回覧板や前日の生徒による町内放送で知らせるとともに、石和東小学校や上平井地区の方々へのチラシ配布、回覧をしたことにより、学校周辺の住民が来場した。マーケットが地域の方に年々周知が進んでいることが感じられる。

生徒は「全校でお客様をおもてなしする日」という気持ちをもって、全校体制でマーケットの準備をしている。

マーケットは、地域の方との交流の中で、生産、製造、販売、接客、環境整備等、日ごろ学習で培った力を発揮できる実践の場である。今後は、本校の様子を知っていただく交流だけでなく、生徒の魅力、本校の製品の魅力を求めて来校していただけるようなマーケットを目指して、交流がさらに深まるように工夫していくことが大切であると考えている。毎回お客様アンケート結果等を参考に、生徒自身もさらにマーケットを良くしていきたいという気持ちが高まる様子が見られている。



駐車場案内



桃カフェ



野菜などの販売



真剣に話を聞く生徒

(2) ブドウの傘かけ

1年生の農業生産の授業では、毎年6～7月地域交流として、本校農場の隣にある藤巻さんのぶどう園において『ぶどうの傘かけ』を行っている。今年で11年目となり、開校当時から続いている。

最初は緊張していた生徒たちだったが、気さくで優しい人柄の藤巻さんに次第に打ち解けていき、農業にかかわることや藤巻さん自身のことなど様々な質問をして交流を深めることがで



説明を基に、ブドウの傘かけ

きた。農家の方の大変さや苦勞を垣間見て、その苦勞の先にある収穫という喜びや尊さを生徒たちは感じたようだった。例年、忙しい時期に、生徒たちのために貴重な体験の場を用意していただき感謝している。

(3) けやきの会の方との交流



9月と1月には食品加工コースの生徒が中川地区の「けやきの会」と地域の皆様を招待し、校内見学ツアーや桃カフェの営業をした。「カフェのBGMに癒される」「生徒がきちんとした言葉づかいで対応してくれた」などの感想を聞くことができ、生徒の喜びや励みになった。また、パンや焼き菓子の販売時間になると人気の「あんぱん」はすぐに完売し、他の商品もご家族やお孫さんへとたくさん購入していただいた。

(4) 中川地区公民館まつりへの作品展示

11月上旬の中川地区公民館まつりに、今年度も美術部の作品を展示した。今年は、部活動からの帰宅途中の生徒が自主的に見学し、中川地区の方から感謝の言葉をいただいた。

日頃からの交流の積み重ねで、生徒も地域のイベントに参加する等、自然に交流できているように感じる。



(5) 中川公民館の清掃



公民館の中、外回りを地域の方と一緒に清掃



花の贈呈

12月、1年C・D組は環境メンテナンスコースの授業において、中川地区の女性部の皆さんと中川公民館の清掃と植栽活動を行った。女性部の皆さんとの会話を楽しみながら一緒に活動することで、地域の方々とのつながりを感じることができた。授業で習得したタオルや自在ほうき、湿式モップ等の清掃技術を発揮する場にもなり、有意義な時間となった。

5 成果と課題

今年度実施した地域交流は「毎年恒例」になってきており、地域と本校の双方が日々の活動、あるいはその時期の活動の一部として自然に取り組むことができていると感じる。地域の方から本校の生徒が登下校にあいさつしてくれるとの話があったり、部活

帰り生徒が公民館まつりに参加したり等、自主的な交流も見られ、これまで以上に地域とつながり、共に生活している意識が高まってきたことが感じられた。この地域交流で培った気持ちや行動が、個々の生徒の居住地域でも地域の一員としての暮らしにつながることを期待している。

推進会議では、以下のような意見が出された。人が一緒に過ごした経験は、大人になってからその大切さやすばらしさに気づくことが多い。交流教育は、優しい気持ち、思いやる気持ち、人が人を認める気持ちなどを培っていく基盤になる。登校時に交通指導をしていると、どの学校の児童生徒も明るく笑顔で挨拶ができるようになっており、地域で生活するために非常に重要なことができてきている。この推進会議が地域と各学校をつなぐ会になっており、気軽に話ができる関係が築けている。

今後も地域交流の活動を通して、相互扶助や協同の大切さを学びながら、末永く交流及び共同学習ができるように内容や方法を工夫していきたい。